

すみれ女短大 ○阪本弘子 名古屋市立女短大 佐野恂子
岐阜女短大 山田令子 東海学園女短大 西條セツ

目的 平面構成実習における運針は、縫製の基礎となる重要なものである。従来はその上達をはかる方法として反復練習を重ねて来たのであるが、他にも上達法はないものかと考え、そうした観点から今回は、運針時の上肢の動かし方を数値的にとらえて、これと運針技術との間の関連性について考察したので報告する。

方法 被検者---短大被服科学生40名。測定時期 昭和5/年5月。

姿勢---椅子は背もたれなしのものを使用して椅座させ、上体は自然のままとし、
下肢は膝関節から直下させた。

服装---上衣 (ブラジャーの上にボディ シャツ着用) 下衣 (スカート)。

運針時の上肢の測定部位 1 脇と上腕との離れる角度。

2 上腕が前方へ傾く角度。

3 上腕と前腕の内角の角度。

用布---市販さらしもめん、長さ80cmを幅二つ折りにして使用。

縫針---印針3の1~2。縫糸---ダルマ糸30^{RB}、赤。

運針の結果の評価---被検者に10分間運針をさせ、その結果について評価した。

結果 (1) 運針技術の結果を評価。

(2) 測定角度からみて運針作業のタイプを分類した。

(3) 運針技術の評価と運針作業のタイプとの関連性について考察した。